

海に立てたくいに  
支えられる能美海  
上ロッジ

# 開業から半世紀 老朽化

# 能美ロッジ 来春休館

## 江田島市 「民間建て替え模索」



江田島市の国民宿舎能美海上ロッジが来年3月31日を最後に休館する。開業から半世紀近くが経過し、老朽化が著しいため、運営する田中達美市長が23日、市議会全員協議会で「今後は民間による建て替えの道を模索する」と報告した。  
(貞末恭之)



指定管理者の休暇村サービス(東京)は来年3月31日で契約期間が終わる。同社は「建物の耐震化がされなければ、指定管理者に再

び応募することは困難」と通告。市は、海上に立つ特殊な立地と費用から、早急な耐震化工事は難しいと判断した。田中市長は全員協議会で「利用者の安全性の問題が第一だ」と休館への理解を求めた。  
ロッジは傷みが目立つ上、客室にトイレがない▽バリアフリーに対応していない▽などの課題もある。

国民宿舎能美海上ロッジ鉄筋3階建てで26の客室を備える。宿泊定員は86人。旧能美町が1967年に開

クリック

業。合併後は江田島市が引き継いだ。2009年から指定管理者制度を導入。記録が残る09年以降、年間の宿泊客数は1万人前後で推移している。

今後の運営について、市は2014年に検討委員会を設置し、「再整備すべきだ」との意見書の提出を受けた。半面、建て替えには少なくとも10億円かかるとの試算があり、市からの持ち出しも年間2200万円に上ることから、市は結論を先延ばしにしてきた。

休暇村サービスは現在、ロッジと温泉施設「シーサイド温泉のうみ」、宿泊施

設「サンビーチおきみ」の計3カ所の指定管理を一括で請け負っている。従業員数は合わせて40人を超える。同社はロッジを除く2施設については、来年4月以降も継続して指定管理者として応募する方針で、選ばれれば雇用をできるだけ継続する。同社は「ロッジの休館で従業員が不安にならないよう対応していく」としている。